岩手医科大学 医療

いわて医療通信 加齢黄斑変性

ゆがみは放置しない！

障子や電信柱が『ぐにゃっ』とゆがんで見えたりする症状はありませんか。ゆがみは網膜に病気がある可能性が高いサインです。目はカメラと似た構造をしており、網膜はレンズを通ってきた画像を投影するフィルムの役割をしています。網膜（フィルム）の中のもっとも画像の解像度がいい部位を黄斑といい、黄斑に病気が生じるとゆがみや中心部の暗さ、見づらさとして強く現れます。最近増加している黄斑部の病気に加齢黄斑変性があります。

加齢黄斑変性は、その名のとおり年を重ねる事が原因で黄斑部に傷みができてしまう病気です。もともとは欧米に多い病気でしたが、日本でも食の欧米化と高齢化のため、50歳以上の方の患者数が増えています。他にも網膜の病気はたくさんありますが、加齢黄斑変性は病気の進行が早いことが多く、放置すると視力が下がり失明する危険もあります。加齢黄斑変性は両目に起きることが多いですが、片方の目が先に起こってくる場合が多いです。進行が早いため早期発見、早期治療で進行を食い止めることが大切になってきます。

片目にゆがみがあっても、両目で見ると意外と日常生活に不自由がなく気づかないこともあります。片目を手で隠し、片目ずつ見え方のセルフチェックを時々試してください。チェックをしてみて、いつもと違う症状が続く場合は早めに眼科で検査を受けてください。健康診断も大切ですが、病気の早いタイミングで検査を受けられるとは限りません。セルフチェックをして、自分の目は自分で守りましょう。

眼科 池田千花